

学校教育の言語と 機能言語学の接続

外国につながる子どもたちの包摂を見すえて

外国につながる子どもたちを包摂するために、「ことば」をそもそもどのように捉えるのかという観点から、子どもたちの発話を理解し、メッセージを伝え、対話するうえで寛容です。しかしその点を真っ正面から捉えて、議論する機会が言語教育分野において、これまでほとんどありませんでした。

本シンポジウムでは、機能言語学的な発想を重視し、これまで十分に検討されてこなかった「外国につながる子どもたち」と「言語の機能」の関係性を「言語」「外国につながる子どもたちの教育」、さらに包摂としての「マルチモーダル」「学校カリキュラム」という形で言語と言語教育、学校の授業、カリキュラムを一貫する形で捉え、その可能性を検討していきます

- 機能主義言語学と外国につながる子どもたちの教育の接続のために
庵功雄（一橋大学）
- 言葉のみかた—機能言語学の観点から
佐野大樹（アナリティカル・リンゲイスト）
- 「CALPの‘A’？」あるいは機能言語学の視点—外国人児童生徒教育を担う教師の「言語」への目を磨く
南浦涼介（広島大学）
- マルチモーダルな言語教育と機能言語学的視点
奥泉香（東京学芸大学）
- イギリスの言語教育カリキュラムにおける機能言語学の受容とその後
小柳亜季（千里金蘭大学）
- ディスカッサント
宇佐美洋（東京大学）

日時・場所

2025年2月22日（土）13:00-17:00

対面：航空会館ビジネスフォーラム（100名）

オンライン：ZOOM（300名まで）

申し込み

こくちーずからお申し込み下さい
対面

https://kokc.jp/e/sfl_edu_ftof/

オンライン

https://kokc.jp/e/sfl_edu_online/



対面
参加申し込み



オンライン
参加申し込み